

令和3～5年度

東京都教育委員会授業改善推進拠点校

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ～指導と評価の一体化の実現～」



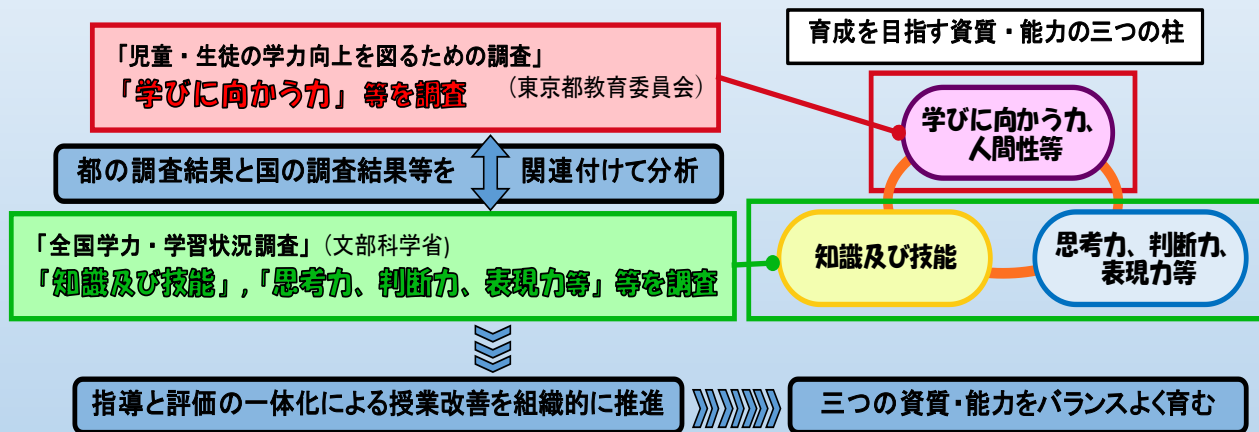
学びを支えるスクラム

「令和3年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」のお知らせ
東京都教育委員会のHP

はじめに

本校は、令和3～5年度東京都教育委員会の「授業改善推進拠点校」の指定を受け、生徒の学力向上を図るため、東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を文部科学省の「全国学力・学習状況調査」と関連付け、学びに向かう力等に着目しながら分析し、指導と評価の一体化による授業改善を以下のイメージ図のように組織的に推進しています。

（「令和3年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」のお知らせの二次元コードを参照）



授業改善推進拠点校として組織的に取り組めるよう、全教員が4つのプロジェクトチーム「ア 生徒の学力向上を図るための調査の効果的な分析方法の開発・実践」、「イ 授業改善の実現に向けた組織的なOJTの推進」、「ウ 生徒一人一人の学びに向かう力等を育む指導方法の開発・実践」、「エ 効果的な家庭学習の指導事例の開発」に分かれ、研究を進めました。

研究2年目の今年度も、試行錯誤しつつ生徒の学力向上のため【生徒・教員・家庭(保護者)が無理なく続けられること】を目指して研究に取り組んでまいりました。この冊子をもって、研究報告に代えさせていただきます。

プロジェクトチーム

※ チームリーダー
(研修研究委員が担当)

・学年内でチーム分け
チームに学年教員が入る。

分析チーム

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 1年 2名 | 調査結果を分析と考察 五中生徒の現状把握と 取り組み内容の提案 |
| 2年 2名 | |
| 3年 2名 | |
| 特支 1名 | |

「ア 生徒の学力向上を図るための調査の
効果的な分析方法の開発・実践」

OJT チーム

| | |
|-------|---|
| 1年 1名 | 一人一研究の実施 共有フォルダ (タブレット)の活用 →情報共有方法の整理 |
| 2年 1名 | |
| 3年 2名 | |
| 特支 1名 | |

「イ 授業改善の実現に向けた
組織的な OJT の推進」



学びに向かう力チーム

| | |
|-------|--|
| 1年 1名 | ルーブリックについて 理解を深める ルーブリック等の活用 個人票の活用 |
| 2年 2名 | |
| 3年 1名 | |
| 特支 1名 | |

「ウ 生徒一人一人の学びに向かう力等を
育む指導方法の開発・実践」

家庭学習チーム

| | |
|-------|---|
| 1年 2名 | 家庭学習の手引きの作成 家庭学習の有用性の分析・改善 やりたいことリストの実施 |
| 2年 2名 | |
| 3年 1名 | |
| 特支 1名 | |

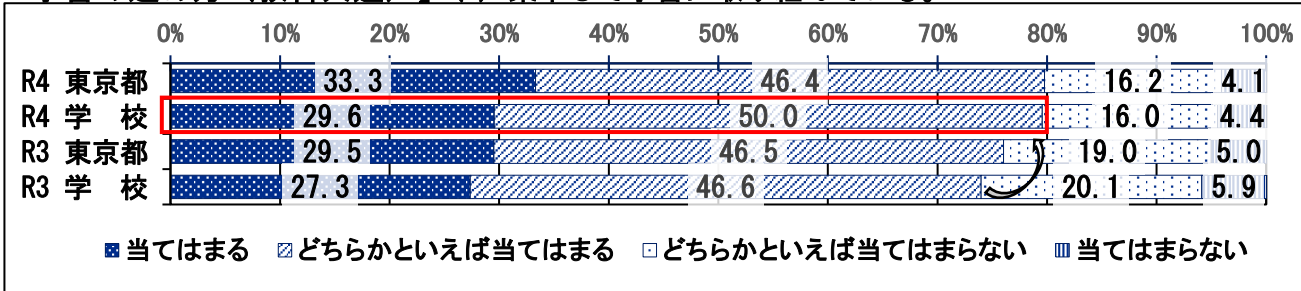
「エ 効果的な家庭学習の指導事例の開発」

実践したこと

1. 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析…活用支援ツールで経年変化のグラフ、S-P表を作成
2. 「全国学力学習状況調査」の分析…調査結果概況、問題別調査結果、活用支援ツールを用いた都の調査結果と国の調査結果のクロス集計表の作成
3. 分析結果の検討

1. 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析

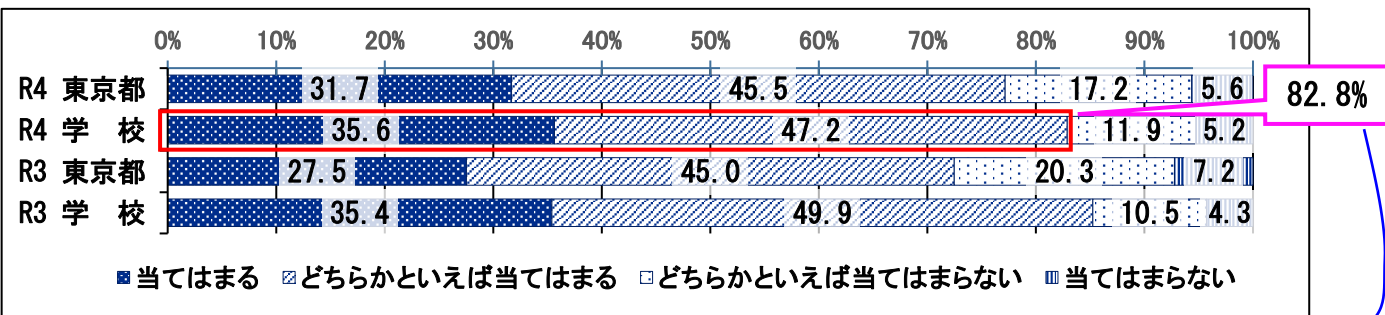
【4 学習の進め方（教科共通）】(4) 集中して学習に取り組んでいる。



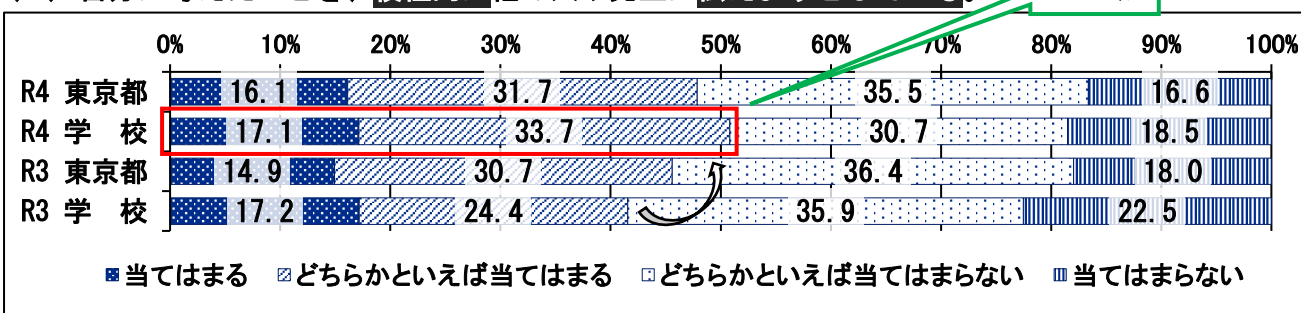
令和3年度の分析では、問題に取り組むときの集中力が低いことがわかった。手立てとしてテスト問題やプリント類などのユニバーサルデザイン化を図ったことで肯定的な回答が79.6%に上昇し、成果が認められた。

【12 学習指導の工夫】

(5) 授業では、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間があると思う。



(11) 自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている。



以上の調査分析から見られた課題の解決に向けた手だてとして以下の2点を設定した。

- ① 「思考力・判断力・表現力等」を育成するための指導法の工夫の手立て
クロス集計表の結果から「振り返る」と「思考を働かせる」ことに着目し、発問の工夫と協働的な問題（課題）解決の学習過程を重視する。
- ② 「主体的・対話的な学び」の実現のための手だて
 - ・生徒一人一人が見通しをもち、自分の学習状況を把握しながら学習の調整ができるように「めあての提示」と「振り返り」を必ず行うようにする。
 - ・生徒自ら対話的な学びから問題解決が図れるように対話を促す場や環境の設定を行う。

実践したこと

- 1 一人一研究授業の実施
- 2 タブレット端末の共有フォルダの活用による情報共有方法の整理

1 一人一研究授業の実施

【内容と手順】

- ① 1学期に一人一研究授業の実施の仕方についてOJTチームで計画を立てる。
- ② いつ、どこで、どのような授業を行っているのか把握しやすくするためにOJTカレンダーを作成する。
- ③ 研究授業後に職員室内で、授業見学者が授業者と指導の仕方、評価の仕方についてフィードバックを行う。
- ④ 授業で使用したワークシートなどをタブレットの共有フォルダに保存する。

【成果と課題】

- ・互いに授業を見合うことで、発問の仕方、評価の仕方、ワークシートの形式、グループ活動の行い方など様々な指導方法を共有し、それらを授業に活かすことができた。
- ・常に同様な取り組みが行えるような体制や雰囲気づくりを継続して行う必要がある。

〈OJT カレンダーの例〉

| 9/28 水 | | |
|--------|-------|-------------------------|
| 1 | 授業者 | |
| | 学級/場所 | |
| | 内容 | |
| 2 | 授業者 | |
| | 学級/場所 | 2C教室、図書室 |
| | 内容 | 発表までの指導、発表指導(五中スタイルの検討) |
| 3 | 授業者 | |
| | 学級/場所 | E1教室 |
| | 内容 | 不定詞の用法 ルーブリック評価の活用 |
| 4 | 授業者 | |
| | 学級/場所 | |
| | 内容 | |
| 5 | 授業者 | |
| | 学級/場所 | 3D / 教室 |
| | 内容 | 「斜面上の台車の運動」対話的活動で考察 |

2 共有フォルダ（タブレット）の活用

【内容と手順】

- ① 教師用タブレット端末のGoogleドライブ内に、共有フォルダを作成する。
- ② 授業で使用するワークシート、評価の仕方についての資料、総合的な学習の時間や道徳の時間での各学年の取り組みなどをフォルダに分けて保存する。

【成果と課題】

- ・他学年や他の教科の取り組みを自由に見ることができ、自分の指導に活かすことができた。
- ・学校内のどこでも、手軽に情報共有することができた。
- ・情報が増えると散在し活用しづらくなるため管理の仕方や管理する担当を明確にする必要がある。

来年度に向けての提案

- ・全教職員が集まり、分析チームの調査分析から見られた課題の解決に向けた手だてについて話し合ったり、「評価の仕方」「進路指導」「生徒指導」「支援の仕方」などについてOJTや情報共有する場を設定したりする。
- ・共有フォルダの活用の仕方を周知し、共有フォルダを管理する担当を設定する。

学びに向かうカチーム

実践したこと

- 1 指導と評価の一体化の実現に向けたルーブリック等の活用
- 2 個人票の活用

1 指導と評価の一体化の実現に向けたルーブリック等の活用

タブレット端末の共有ドライブにフォルダを作り、全教科間（特別支援学級を含む）で評価に関する資料を共有できる環境を作った。各教科における指導と評価の一体化の実現に向けた取組の充実につながった。

達成目標(ルーブリック)と評価

| 実験編 | | | |
|-----|---|-------------------------------------|----------|
| 脳 | 評 | 達成目標(ルーブリック) | 記述 評価 |
| 思考 | A | 実験を成功させるために、理由を考えて、実験方法を調整することができた。 | |
| | B | 実験を成功させるために、実験方法を調整することができた。 | |
| | C | 実験方法を調整することができなかった。 | |




〈中学校 1 学年 理科での例〉

| 考察編 | | | |
|-----|---|--------------------|----------|
| 脳 | 評 | 達成目標(ルーブリック) | 記述 評価 |
| 思考 | A | 根拠をもとに、考察することができた。 | |
| | B | 考察することができた。 | |
| | C | 考察することができなかった。 | |

MY TARGET!! 月 日 名前

★漢字を正確に覚えて書けるようになる。

↓ 目標にチェック

| | | |
|---|--|--|
|  SPECIAL | とめ、はね、はらいまで正確に書ける。 中間点なし 110点 | |
|  RED | ていねいに 他の人が読めるように書ける。 中間点あり 90点以上 | |
|  WHITE | ヒントをもらって書ける。再チャレンジ1回 中間点あり 70点以上 | |

〈特別支援学級での例〉

2 個人票の活用

- ① チーム会議において、個人票の活用方法について検討した。
 - ・各学年の効果的なタイミングで実施（主に定期考査終了後）
 - ・生徒本人の振り返り、保護者への確認の方法については全学年統一
- ② 本人・保護者共に学習への取組について振り返る機会となった。

来年度に向けての提案

指導と評価の一体化の実現に向けたルーブリック等の活用

- ・今年度は情報共有の土台作りで終わった。各教員がルーブリックを活用した授業改善をしていくために、普段から教科を超えた情報共有を行うことが必要となる。また、ルーブリックを「作ること」を目標とするのではなく、生徒の主体性を高めるために「効果的に活用する」ことに重点を置き実践していきたい。

個人票の活用

- ・今年度の実施方法で効果的な機会を作ることができたため、継続するとよい。他の方法として、三者面談の場で活用する等の方法もあるため、活用の仕方を再検討してもよい。

実践したこと

- 1 個別最適な学びの実現に向けた手立ての検討
- 2 自主的な学習の充実を図る手立ての開発

1 個別最適な学びの実現に向けた手立ての検討

- ① 家庭学習チームで各教科の宿題や家庭学習の提示の方法について検討し、全ての教科で一律の様式を用いたり、一斉の声かけ等を行ったりすることは困難であることから、各教科から授業内での課題の提示を詳細に行ってもらうことが現実的であると判断した。
- ② eライブラリ等を活用し、自分のペースで取り組める課題について考案、提示できるよう各教員に呼びかけた。しかし、十分な活用の可否については教科性と生徒自身や家庭の状況によるところが大きくなるため、すぐに成果として表れてはいない。

2 自主的な学習の充実を図る手立ての開発

- ① 「家庭学習の手引き」を生徒・家庭向けに配布し、家庭での学習の方針を示した。(二次元コード)
- ② 生徒が自身の学習習慣の状況を確認することができるよう、夏休み、冬休みの「しおり」に学習時間を記録する欄を設けた。
- ③ 3学期に1、2年生を対象に「やりたいことリスト(右図)」を配布、生徒が自分で課題を設定し、その取り組みを自分で評価する機会を設定した。
- ④ 上記の「リスト」の取り組みの様子を見て、次年度に改善していく。

〈やりたいことリスト〉



〈家庭学習の手引き〉

三鷹市立第五中学校
学習のモチベーション向上チャレンジについて

目的：三鷹五中の生徒の皆さんに「前向きに」かつ「自主的に」学習に取り組んでほしい。また、先生たちもその手助けをしたい！
しかし、そのためにはどんな手助けを考えたら良いのだろう……
そこで、まずは皆さん自身が普段「頑張りたい」と思っていることがどんなことなのか、それを確かめるところから始めてみようと考えました。

【一週間に一回、その週の「やりたいことリスト」を作成する】

一週間のうちに出席遅刻、予告されている小テストの勉強、単元テストの復習……などなど、決まりはひとつだけ、「学習に関すること」であること。これを満たしていれば、どんなことでも構いません。
毎週「今週はこれをやろうかな」と予定を立ててみて、週頭に「さて、先週はこうだったから今週は……」と、振り返りつつ次のステップを考える。これを繰り返していくうちに、順調に進む場面もあれば、うまくいかない場面も出てくると思います。そんな時、なぜうまくいかないのか？ どうしたら改善できるだろうか？ それを一緒に考えてみませんか。

使いかた
① 毎週月曜日(※あくまで基準に、その1週間で取り組みたいことを決め、記入する。
② 取り組みたら、チェック欄に自分でチェックをし、自分を認める。
③ 取り組みなかったら、チェック はしない。

これだけ！
この「やりたいことリスト」の作成が、学習の「はじめの一歩」になります！

| 記入例 | 取り組んでみようと思うこと ※学習であれば何でもよい！ | スcreenshot にのりましよう。 | できたらチェックを |
|---------------|-----------------------------|---------------------|-----------|
| 1/30 ～2/3 | ・英語の教科書 POOの単語を3回ずつ書く | | ✓ |
| 2/6 ～2/10 | | | |
| 2/13 ～2/17 | | | |
| 2/20 ～2/24 | | | |
| 2/27 ～3/3 | | | |
| 3/6 ～3/10 | | | |
| 3/13 ～3/17 | | | |
| 予備 | | | |

来年度に向けての提案

- ・個人のペースで取り組める学習を促す手立てについて、教科の枠を越えて情報共有を行い、教材の作成方法や課題の提示、評価の仕方等について理解を深める機会を設けたい。また、学校の取り組みを家庭にも発信し、家庭の協力も得ていながら進めていきたい。
- ・自主的な学習の充実について、まずは「やりたいことリスト」の活用度合いを確認する。その上で、生徒が目的意識をもって前向きに学習に取り組むことができるよう、学校全体、または教科、学年の単位で生徒の状況に応じた手立てを検討していきたい。

課題解決に向けた各教科における手だての成果と課題

課題解決に向けた手だての三項目

- 思**：思考力・判断力・表現力を育成するための手だて
- 主**：主体的な学びを実現させるための手だて
- 話**：対話的な学びを実現させるための手だて

※ 使用したツールは、【 】で示した。

| 教科 | 手だて | ○成果（生徒の変容）と●課題 |
|--------|--|--|
| 数 学 | 思 主 話 <p>本時の課題に関連する日常の事象や具体的な事象を提示し、疑問や葛藤を生徒から引き出すことや対話を促すことができる導入の実施</p> | <p>○日常の事象から数学化して考え、日常の事象と数学を関連付けて問題解決を図る姿が意欲的であった。</p> <p>○対話的な学びを通して、問題解決を図り、既習事項と関連付けて類推的に考えたり、統合・発展的に考えたりする姿がより見られた。</p> <p>●提示した事象が既習事項と結びつかないことで、問題解決の見通しをもつことができず、主体的に学びに向かう姿に差が見られた。</p> |
| | 思 話 <p>「めあて→課題→自力解決→グループ討議→振り返り」の学習サイクルとそれに対応したノート作りの実施</p> | <p>○他者の意見をマイノートに書くことで、自分の考え方、解決手法の違いが明確になり、解決過程が振り返りやすくなった。</p> <p>●自他の考えを「全く同じ」か「違う」という視点で比較・検討してしまい、広がりや深まりを得られない生徒も一定数いる。それぞれの意見の見方（着目した場所）や考え方（もととなる考え方）、解決過程などに着目できるような発問を交えていく。</p> <p>●生徒同士の対話において、良い考えであっても、その生徒の説明するスキルに左右されてしまうことも多いため、筋道立てて説明する力を育成することや考えを整理しながら対話を進める発問を交えながら対話する場面を設定していく。</p> |
| 音 楽 | 思 話 <p>楽曲の特徴を照らし合わせて楽曲を分析させた。個人の考えを班で共有後、クラス全体で確認して最適な表現を考えた。</p> | <p>○異なる解釈をしている人の意見に触れ、考えを広げることができた。</p> <p>○対話を通して曲想を捉えながら、どのように工夫して歌えば良いか考えさせることができた。</p> <p>●自身の経験不足や語彙不足により、個人で考えをもつことができない生徒、適切な言葉で表現することが難しい生徒がいた。</p> |
| | 話 <p>Google クラウドにて、クラスだけでなく学年全体にも分析した意見を掲載、共有した。</p> | <p>○授業後に振り返ることで、クラス全員が共通のイメージや思いをもって歌うことができた。</p> |

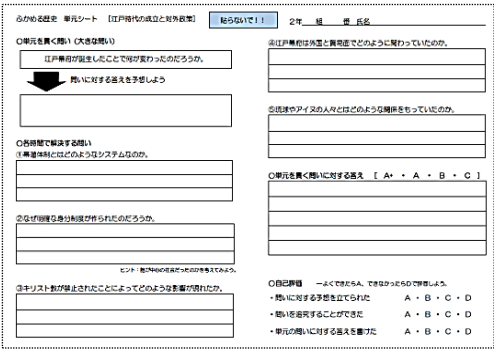
課題解決に向けた各教科における手だての成果と課題

※ 使用したツールは、【 】で示した。

| 教科 | 手だて | ○成果（生徒の変容）と●課題 |
|----|--|---|
| 国語 | <p>【思主】</p> <p>「書いたレポートを読みとる、生徒同士で評価し合う」活動の中で、【ループリック】を活用した。</p> | <p>○ループリックを活用し、評価し合うことで、自分の改善点を明確にすることができ、次時への見通しをもつことができた。</p> <p>●文章を読み取ることや書いて表現することに関しては、様々な要因による個人差がある。ICT 機器の活用や段階的な資料を用意することで、個別最適な学びを図っていくことが必要だと考える。</p> |
| | <p>【思話】</p> <p>質疑応答込みの【ピブリアバトル】を行った。また、学年共通の「三鷹五中スタイル」を設定した。</p> | <p>○質問によって発表者の説明不足を補い、聞き手が納得できる発表に近づけられた。</p> <p>●単純な課題では対話ではなく、交流で終わってしまうため、生徒が熟考できるような課題の研究を進めていく。</p> |
| | <p>【思】</p> <p>詩の授業で「最後の二行から読み取れること」について考える際、グループ活動を通して生じた個人の考えの変容がわかるような【ワークシート】を作成する。</p> | <p>○個人の読み取りをもとに、グループでの対話的な学びを通して考えを広げ、深められていく過程が視覚化された。</p> <p>●国語で履修すべき学習項目である「話し合いの仕方」を、1学年の年度当初に実施することで、他教の対話活動にも生かせるのではないかと考える。</p> |
| 理科 | <p>【思主】</p> <p>【変容を引き出す（可視化する）イメージマップ】 before(単元のはじめ)→ after(単元の終わりに)、学習内容に関するイメージマップ作りや課題に対する解答をグループ活動でも行い、単元の始めと終わりで変容を読み取った。</p> | <p>○単元を通して生徒が習得した知識等を、視覚的にも確認して、変容を自ら実感できるようになった。</p> <div data-bbox="868 1182 1455 1402"> </div> |
| | <p>【思話】</p> <p>【ホワイトボード】 多様な考えを引き出すことができるように発問を工夫し、その考えをグループ活動を通して、考えを深めたり再構築したりするなどの対話的な学びの充実を図った。</p> | <p>○グループ活動を通じた対話的な学びでは、他者の考えに触れて新たな発見があり、自分の考えと同じ考えがあれば自信につながった。</p> <p>●自分の考えを書けない生徒、グループ活動が苦手な生徒に対する活動を促す声かけ。</p> <div data-bbox="1249 1518 1501 1682"> </div> |
| | <p>【思主】</p> <p>授業プリントに学習内容に関係のある【二次元コード】を掲載し、授業や家庭学習でも学びが深まるようにした。</p> <div data-bbox="292 1868 438 2033"> </div> <div data-bbox="475 1899 767 1995"> <p>「宇宙ワクワク大図鑑」 JAXA 宇宙科学研究所</p> </div> | <p>○学習用タブレット端末を活用し、主体的に取り組む姿が見られるようになり、個別最適な学びに貢献している。</p> <p>●家庭学習でどれだけ活用されているか確認できない。授業の中で、家庭で学習するときに【二次元コード】を活用するように、くり返し声かけをする。</p> |


課題解決に向けた各教科における手だての成果と課題

※ 使用したツールは、【 】で示した。

| 教科 | 手だて | ○成果（生徒の変容）と●課題 |
|----|---|--|
| 社会 | <p>【単元シート】を用いて、単元ごとに問いに対する自分なりの考えを記入することを習慣化した。</p>  | <p>○自分の言葉で考えをまとめることが少しずつ定着し、定期考査の記述問題にも取り組む生徒が増えた。多面的・多角的に物事を捉えるように努める様子が文章から見られた。</p> <p>●問いに正対した内容を書けていない生徒が一定数いた。</p> |
| | <p>【授業プリント】を活用し、主体的に調べる活動を取り入れることやグループワークを行い対話的な学びの場面を設定した。</p> | <p>○自ら答えを求めるなど、探究する姿勢が生まれた。資料から必要な情報を読み取る能力が向上した。</p> <p>●対話的な学びに取り組むために必要な基礎知識の定着が難しい生徒がいる。</p> |
| | <p>授業内で話し合い活動を行う際、4人のグループで話すことを基本としながら、隣同士で話す、席を自由に移動して話すなど、様々な情報共有の仕方を実践した。</p> | <p>○一斉授業では理解が難しい生徒も、少人数での対話によって理解が深まる。受動的でないため、集中を持続させられる。</p> <p>●学習内容の精選とどこで対話的な活動を活用するのかを考える必要がある。対話的な学びを行うために必要な基礎知識の定着が必要である。</p> |
| 美術 | <p>表現力・技術力の向上を図るために、優秀作品の提示を行った。</p> | <p>○より良い作品を創るために粘り強く取り組む姿が見られた。</p> <p>●定期考査の結果からは、基礎となる知識・技能が不足している生徒がみられる。</p> |
| | <p>学習用タブレット端末を使用し、情報収集に役立たせた。</p> | <p>○基礎となる知識・技能を補うことができた。</p> <p>●タブレット端末での情報収集についてデザインの偏り等を防ぐために、教師側から収集の内容を指示する必要がある。</p> |
| | <p>アイディアスケッチの活動の際、クローキ帳を班で回覧した。</p> | <p>○色や形を通して造形的な「対話」を行うことができた。自分と異なる意見を受け入れ、多角的な視点からより良い作品を創るために粘り強く取り組む生徒を育成することができた。</p> <p>●既視感のあるデザインから離れられない生徒もみられる。</p> |

課題解決に向けた各教科における手だての成果と課題

※ 使用したツールは、【 】で示した。

| 教科 | 手だて | ○成果（生徒の変容）と●課題 | |
|-------------|-----|--|--|
| 保健体育 | 主 | <p>一人ひとりが自身の課題を発見することができるよう、スモールステップで授業を進めると同時に、段階に応じた課題解決学習の場を設けた。</p> | <p>○自分の課題を確認し進める中で、得意な生徒はもとより、苦手な生徒も積極的に考え動くようになった。</p>  |
| | 思話 | <p>持久走(男子 1500m 女子 1000m)のタイム計測においてラップタイムをグラフ化し、ペアでレースの分析を行う時間を設定した。</p> | <p>○自身の課題を明確にすることで、課題解決に向けた明確な意図をもち、目標を立てることができるようになった。また、ペアで共有したことをもとに、互いに細かな声掛けをし合う中で、客観的に自分自身の走りを分析できるようになった。</p> |
| | 思話 | <p>ハードル走の授業において、学習用タブレット端末を活用し、ハードリングのフォームをペアで確認し合う場面を設定した。</p> | <p>○自分のフォームを撮影し、動画で確認することで、課題が明確になり、自ら考え課題を修正する場面が多くみられた。</p> <p>●個々の課題解決に結びつきやすいグループするとできるとさらに効果的であった。</p> |
| 家庭 | 主 | <p>ミシンを実際に操作しながら、様々な部品の動きを確認させた。</p> | <p>○説明書や教科書だけでなく、実物の操作をすると、どの動作がどんな動きにつながっているかを確認できた。</p> <p>●一人1台なので、どちらか一方が主になって活動するケースが多い。</p> |
| | 思話 | <p>二人で1台のミシンを見ながら、針を観察して形の特徴や理由を考えて話し合ったり、ミシンがなぜ縫えるのかをミシン操作をしたりしながら、意見を出させた。</p> | <p>○ゆっくりミシンのはずみ車を回転させると、様々な部分がそれに連動して動くことを確認できた。普段気付かない下がまの動きに気付くことができた。他の人の意見をもとに、上糸が下りた時、下糸が引っかかって、互いに絡むことが確認できた。また、会話をすることによって、一人では気付かなかったことに気付くことができた。</p> |
| | 主 | <p>ミシン操作のチェック表を使って、自分がわかること、説明できることを記録させた。</p> | <p>○最初の授業と、作品製作後の授業で比較し、作業をしながら、ミシンへの理解が進んだことを自覚できた。</p> <p>●作業をする上で、できるだけ最初から（糸掛け）からの操作を意識したため、作業の進みが遅くなった。時間と操作の習得の兼ね合いが難しい。</p> |

課題解決に向けた各教科における手だての成果と課題

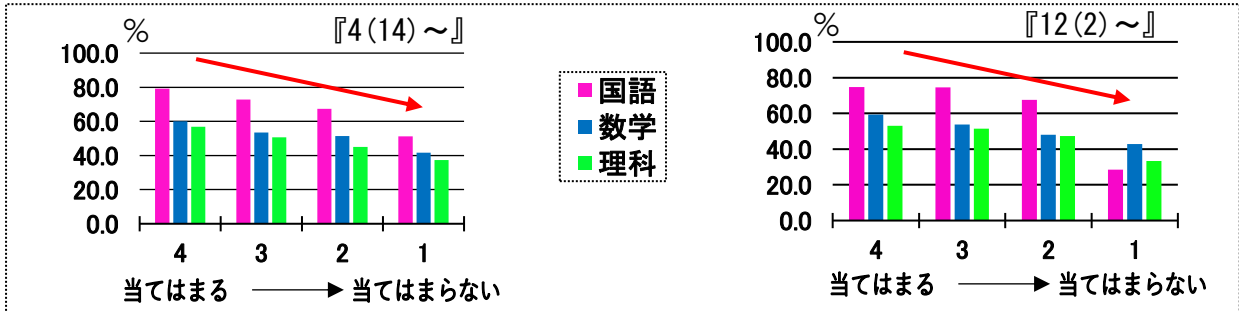
※ 使用したツールは、【 】で示した。

| 教科 | 手だて | ○成果（生徒の変容）と●課題 | |
|------|-----|--|--|
| 英語 | 主 | <p>生徒同士の学び合いの機会を設けた。</p> <p>【Talk&Talk、スピーチ準備、リテリング、ディクテーション、Chat等】</p> | <p>○生徒同士の英会話練習の後、分からなかったことを共有することができた。</p> <p>○自発的に iPad を活用し、言えなかった言葉を調べノートにメモを残し、活用する意欲が見られた。</p> <p>○失敗してもリカバリーできる評価方法を生徒と共有し、意欲的に参加する生徒が増えた。</p> <p>●ALT との会話回数を増やす。</p> |
| | 思話 | <p>素早く読み解く力と即興で表現する力を鍛える機会を設けた。</p> <p>【Talk&Talk、リテリング、パフォーマンステスト、Chat、英作文、速読教材、文法確認ドリル等】</p> | <p>○分からなくても恥ずかしくないと感じ、引き続き学習を進めようと励む生徒が増えてきた。</p> <p>●次回の学びにどのようにポートフォリオとして残していくかが課題である。</p> <p>●単元のまとめとして、スピーチ原稿の作成やディクテーション活動を応用し、自己紹介を文章で書けるように継続して取り組んでいく。</p> |
| 特別支援 | 思主話 | <p>・タブレットなど ICT 機器を使い、個人の意見の集団への提示方法の工夫を行った。</p> | <p>○自己肯定感が低い生徒など消極的な生徒の学びに役立ち、発言が活発になった。</p> <p>○書字に困難さがある生徒にとっても特に有効性が感じられた。</p> |
| | 思 | <p>・ループリックによる評価基準をプリントで提示し、授業の最初と最後に活用した。</p> | <p>○見通しをもつことで、授業に対する安心感が増し、落ち着いて集中できるようになった。</p> <p>●一授業当たりの時間配分が難しい。</p> |
| | 話 | <p>・ICT 機器のアプリケーションを介することで自分の考えを表現しやすい環境を整えた。</p> <p>【スプレッドシート、Jamboard、Kahoot、Number、Frames、classroom など】</p> | <p>○ほとんどの子が楽しんで参加できるようになった。</p> <p>●当初は使用方法の理解などに困難さはあった。得意、不得意に個人差が出やすいので対応が課題。</p> |

来年度に向けて

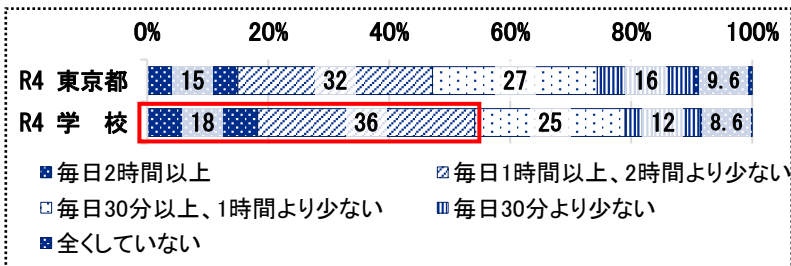
【「児童・生徒の学力向上を図るための調査」と「全国学力・学習状況調査」との相関関係を分析】

『4(14) どうしてそうなるのかという理由を考えながら学習している。』『12(2) 授業では、前の時間までに学習した内容と結び付けて考える時間があると思う。』に肯定的回答している生徒の方が、国語・数学・理科の正答率が高いという仮説を立てクロス集計表を作成して検証したところ、それぞれ肯定的に回答している生徒ほど3科の正答率が高い傾向にあることが分かった。



【10 学習習慣（学習塾等を含めない）】

(1) 毎日の学習時間



1時間以上学習している生徒が54%に上昇。全く学習していない生徒8.6%(31人/362人)を少しでも減らせるよう、家庭学習の充実を図る。

1. 対話的な学びの実践を継続

- 理由(根拠)をもとに考えさせる。
- 既習事項や生活体験などと結び付けて考えさせる。

2. ユニバーサルデザイン化の継続

3. 「めあて」の提示と「振り返り」

- 目標の示し方
- テストではかれない能力の見取り方
- フィードバックの仕方の工夫

おわりに

本校は、令和3～5年度東京都教育委員会授業改善推進拠点校として「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善～指導と評価の一体化の実現～」を研究主題として、研究研修委員を中心に研究を進めてまいりました。令和5年度も授業改善を続け、確実に生徒の学力向上につなげていく所存です。

【令和4年度 ご指導いただいた先生方】

国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官 山森 光陽先生
 東京都教育庁指導部義務教育指導課長 市川 茂先生 指導主事 川村 直也先生
 三鷹市教育委員会 指導課長 長谷川 智也先生 統括指導主事 齋藤 将之先生
 指導主事 門田 剛和先生 指導主事 鹿沼 寛明先生 指導主事 稲葉 圭亮先生

【令和4年度 研究に携わった教職員】

(◎研究主任 ○研究研修委員)

| | | | |
|-------------|-------------|-------------|----------------|
| 校長 鶴崎 靖二 | 副校長 金 誠一郎 | 主幹教諭 多氣 容子 | 主幹養護教諭 竹之内 留美○ |
| 主任教諭 磯村 佳美◎ | 主任教諭 合田 あゆみ | 主任教諭 杉本 朋子 | 主任教諭 富成 直宏 |
| 主任教諭 高橋 香 | 主任教諭 宇野 卓技 | 主任教諭 道田 恵 | 主任教諭 上竹 睦 |
| 主任教諭 篠崎 勝正 | 主任教諭 市川 洋子 | 主任教諭 太田 菜穂子 | 主任教諭 中村 卓郎 |
| 教諭 本田 梨沙○ | 教諭 岩下 巧○ | 教諭 藤本 龍 | 教諭 後藤ひばり○ |
| 教諭 森口 亮○ | 教諭 瀧本 泰 | 教諭 岩城 小百合 | 教諭 村上 麻実 |
| 教諭 菊池 将公 | 教諭 普光江 真有 | 非常勤教員 岸谷 秀和 | |

